

薫風

札幌市立あやめ野中学校
学校だより「薫風」第1号
令和7年4月10日(木)発行

札幌市立あやめ野中学校第37回入学式 式辞

校長 大高 雅子

札幌市立あやめ野中学校に入学する七十四名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんの本校への入学を、職員一同、心からお祝いします。先輩の二・三年生も皆さんをあたたく見守ってくれています。

またこのよき日に、本校PTA会長様をはじめとするご来賓の皆様、新入生保護者やご家族の皆様のご臨席を賜り、ここに第三十七回入学式を行うことができますことに、心よりお礼申し上げます。今日は、私から新入生の皆さんに3つのお話をしたいと思います。

ひとつめは、人に優しくすることについてです。これから、本校の生徒会が企画の中心となり、新入生歓迎会があります。そこでは、あやめ野中学校が伝統として大切にしてきた取組が紹介されます。「あいさつ八カ条」や「五・三・一運動」、「いじめ撲滅運動」などです。先輩から教わるこの取組は、人とのつながりをつくること、自分や相手のことを考える力をつける取組です。生徒会が中心となり、息を合わせ、心を合わせて、みんなで行動に表し成長していくために受け継がれてきた本校教育の「心の羅針盤」です。私は本校に着任してからずっと、優しさは強さ、強いことは優しいことであると伝え続けています。一見反対の意味のように感じる優しさと強さ。しかし、忙しい時も、腹が立った時も、自分のことで精いっぱいの時も、相手を大切にしたい言葉かけや行動ができる人は、真の意味で強い人なのです。簡単ではありませんが、そう願いながら練習していくことが、皆さんを育てていきます。皆さんは未来を創る人です。成人を迎えるまであと5年。少しずつ優しさという強さを心に育て、人の世の平和を創っていくのです。

ふたつめは、「練習」することについてです。「練習」には、挑戦と失敗が伴います。成功したら嬉しい、失敗や過ちはしたくない、当たり前です。できれば成功だけの3年間にしたいところです。しかし不思議なもので、できた経験より、できなかった経験から学ぶことの方が多くに思います。コミュニケーションの達人は、「ごめんね」「ごめんなさい」がとても上手です。「ありがとう」は言いやすいけれど、「ごめんなさい」は少し言いづらい。たぶんそれは、もうひとつ、「勇気」が必要だからです。勇気をもって反省したり、課題を受け止めたりして、次に進むことで人は成長します。自分の中に勇気を育て、失敗を恐れず挑戦する、その練習をしてほしいと思います。義務教育という、守られているうちにできる練習です。

みつめは、「自分でする」ということについてです。今日から皆さんは中学生です。今日のこの時間からだと、三年間の時間は全部あります。全部あるのですから、一番身に付きにくいことから、やってみるのはどうでしょうか。「あなたはどのように考えますか」「あなたが考えた理由を述べなさい」。中学校三年間の学びのゴールでは、自らの考えを話したり、書いてまとめたりすることの連続です。ですから、「先生、それは何故ですか」と自分で尋ねる力を自分なりにやってみることから始めてみてください。一人一人の練習を、あやめ野中学校の先生方は、全力で応援します。

保護者の皆様、地域の皆様、大きな変化の中に飛び込み、葛藤しながら成長していくお子さまの育ちを、共に見守っていくことができますよう、よろしく願いいたします。

「かがやく花のすなおさに、のびゆくこころを育ててきた」皆さん、「やればできる！挑戦！」を頑張ってきた皆さん、中学校でも心豊かに自分を輝かせていく毎日になるよう期待を込め、私の式辞いたします。

